

秋田県における合板用木材供給 ～素材生産業の対応～

堀靖人・嶋瀬拓也(森林総研)

はじめに

国産材利用がなかなか進まなかった理由の1つに安定的な供給がむずかしいことがあげられる。秋田県のA合板工場では、スギを合板用原料として利用しはじめ2001年には9,748m³であったが、年々その消費量を拡大し、2005年には17万7,363m³に達している。このように消費量を拡大できた背景には、山側から合板用木材が安定的に供給できたためである。本報告では、素材生産業者を中心に、合板用素材の安定供給につながった要因について分析する。

研究の方法

秋田県秋田スギ振興課、秋田県素材生産事業協同組合連合会、同連合会傘下の素材生産業者(3業者)、秋田県森林組合連合会、A合板工場、S合板工場、東北森林管理局販売課からの聞き取り調査により、合板工場で県産材を利用するようになった経緯、安定供給の仕組みを明らかにするとともに、安定供給が可能となった要因について分析する。

加えて、安定供給を支える要因の1つとして、素材生産業者の生産量の拡大が大きいと考えられる。秋田県秋田スギ振興課および秋田県素材生産事業協同組合連合会の業務資料から素材生産業者が生産量を拡大できた要因について分析する。

結果と考察

秋田県において合板用木材の安定供給が実現できた要因として下記が考えられる。

- (1) 県主導で、県の担当課、秋田県素材生産事業協同組合連合会、秋田県森林組合連合会、秋田県合板産業連合会からなる秋田スギ合板用原木需給協議会がつけられ、この場で合板用木材の需給量と価格を話し合う場が設けられたこと。
- (2) A社が、合板用木材の価格を上記協議会の場で明確にしたことと、現金決済により購入するようにしたこと。
- (3) 国有林のシステム販売による合板用木材の供給が始まったこと。
- (4) 取引量の拡大と工場着価格の明確化、現金決済によりにより素材生産業の経営安定化につながったこと。さらに国と県補助と相まって高性能機械の導入が進み、生産量の拡大につながったこと。

引用文献

嶋瀬拓也・天野智将(2005) 合板工業における国産針葉樹材の利用実態. 日本森林学会 関東支部論文集 56 : 181-184

(連絡先: 堀靖人 horijas@affrc.go.jp)